

# 仏の願い

平成 22 年 西雲寺だより 春号 (16 号)



親鸞聖人の七百五十回御遠忌まで残すところ丁度一年となりました。果して真宗門徒たる私たちがそのご勝縁に遇うお待ち受けのところができているでしょうか。

生きることに惑い、苦しみ迷わなければならぬ私たちに、如来のご本願にめざめ、お念仏申して、縁ある人々と共に浄土へ歩ませていただく仏道が、すでに如来さまによって成就されていることを、九十年のご生涯を通して明らかにして下さった親鸞聖人、私たちはそのご開山親鸞聖人にお会いしているのでしょうか。

親鸞聖人九十年のご一生は、誰でもない、むなしく人生を終わっていかなければならぬこの私一人(いちにん)のためのご化導であったと、そのご苦勞をいただいているかどうか問われているのです。

(住職)

## 親鸞聖人の生涯

## 稲田定住

## 下妻で見た恵信尼(えしんに)の夢

聖人の一行は、佐貫(さぬき)から東に進み、常陸国(ひたちのくに)に入つて下妻の幸井郷(さかいのこう)(下妻市坂井)という所で足掛け三年ばかり滞在されました。聖人たちのお住いを「小島(おじま)の草庵」といいます。

親鸞聖人は九十歳の時、京都でご往生されます。聖人につき添っていた末娘の覚信尼(かくしんに)は、越後の母恵信尼にそのことを手紙で知らせました。その手紙への返事の中で恵信尼は、昔、下妻で見た不思議な夢の話打ち明けています。あらずじは次の通りです。

お堂で供養が行われており、そのお堂の前にある鳥居のようなものに、二体の仏の絵像がかけられている。「何とおっしゃる仏さままでございますか」と恵信尼が問うと、誰が答えたのか分からないが、「光っているのは法然上人で、勢至菩薩でいらつしゃいます。もう一体は観音菩薩で、あれこそが善信(親鸞)ですよ」という答えが返ってきた。師法然上人と、夫親鸞がそれぞれ阿弥陀仏の脇侍(わきわき)である勢至、観音両菩薩の化身だといふのだ。恵信尼は驚き、さつそく夢のことを親鸞に話した。すると親鸞は「法然上人が勢至菩薩だというのは事実で

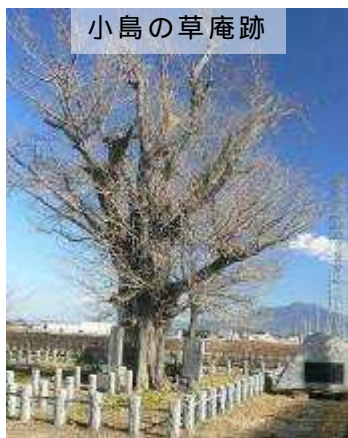
す。智慧の菩薩ですから光り輝いています。」と答えた。恵信尼はこの時、親鸞が観音菩薩であるということについては一切口にしなかつたものの、それ以来、心の中では夫親鸞を普通の人とは思えず、尊敬の念を深くして生活した。

一方、親鸞にも妻の恵信尼が観音菩薩の化身であるという思いがありました。かつて若き親鸞が京都の六角堂に百日間参籠(さんろう)したとき、観音菩薩が妻として現れたという夢告(むこく)を受けたことがあったのです。これらのエピソードは、夫婦がお互いに敬い合っていたことを如実に物語っています。

## 稲田定住

やがて下妻を後にして、聖人一行は笠間郡の稲田(茨城県笠間市)に向いました。聖人四十四、五歳のことです。この稲田に草庵を結び、以後二十年近く定住することになります。この草庵の跡には西念寺が建っています。

聖人が稲田に定住するには二つの目的がありました。一つは法然上人のあらわされた「選択集」が南都北嶺の聖道門仏教から批判を受け、それがもとになって承元(じょうげん)の法難がひき起こされ、吉水の教団が取りつぶされました。この聖道門からあびせられた批判に対し、「選択集(せんじやく



小島の草庵跡

しゅう)こそが、末法の世においてすべての者が平等に救われる唯一の仏道を明らかにしたものであつて、それを論証していくことが使命であり、法然上人の恩徳に報いることであると思われたのです。そのために、近くにある鹿島神宮や香取神宮に所蔵されている大部の経、論、釈を読み解き、自己の信仰を体系的に論じる『教行信証』を執筆することを決意されました。

もう一つは、吉水の法然上人の専修念仏の僧伽(さんか)(共同体)に加えられた者として、その一生を貫く感激を通して、もう一度この関東の地に念仏の僧伽(共同体)を誕生せしめたいという深い願いをもっておられたのではないのでしょうか。その為に、聖人は稲田を拠点にして教化伝道の日々を過ごされることになるのです。

## 関東での教化伝道

聖人が定住の地として選んだ稲田を中心とする関東の地は決して未開の地ではありませんでした。鎌倉には幕府が開かれ、鎌倉五山を中心とする臨済禅の拠点となっていました。また天台宗、真言宗も根を張り、日蓮聖人によつて法華宗も新興の宗教として広まりつつありました。お念仏の教えも、実信房蓮生(じつしんぼうれんしょう)など京都で法然上人の教えを受けた俗弟子たちが、土地の有力な領主や武士となっていました。

稲田の草庵跡  
西念寺

また関東は善光寺とも地理的に近く、阿弥  
陀如来と観音菩薩、勢至菩薩を一光三尊仏  
とする善光寺如来信仰が盛んで、善光寺聖  
（ひじり）たちが行きかかっていました。また  
聖徳太子を観音菩薩の化身と仰ぎ、庶民の  
苦しみを救って下さるとする太子信仰も広  
まっていた。その外、鹿島神宮や香取  
神宮などがあり、神々に対する信仰も庶民  
の心に根づいていたと思われます。そのよ  
うな中で、「ただ念仏して」往生浄土の道を  
歩む、純粹な絶対他力の教えを説くことは  
困難なことであつたと思われます。

『歎異抄』の中に

うみかわに あみをひき つりをして  
世をわたるものも 野やまに ししを  
かり とりをとりにて いのちをつくと  
もがらも あきないをもし 田畠をつく  
りてすぐるひとと も ただ同じことなり  
さるべき業縁のもよおせば いかなる  
ふるまいもすべし

とあり、また他のお聖教の中に

いなかの人々の文字のこころもしらず、  
あさましき愚痴きわまりなきゆえに

とありますので、聖人が教化された相手は、  
獵や漁（すなどり）をなりわいとする人々、ま  
た商いをする人や百姓たちであり、その  
人々は学問や教養もなく、ただ生きる為  
に泥まみれになって、大地にしがみついで生  
きる人々であつたと思われます。これらの  
人々に、聖人は自らも家庭をもち、煩惱に  
まどう凡夫としての生き様をさらけ出しな  
がら、お念仏のまことの救いを諄諄と説か  
れていったのです。

御同行同朋のまじわり

聖人が教化をされていくなかで、最も大  
切にされたのは、御同行御同朋（おんどうぎょ  
うおんどうぼう）の精神でありました。

『歎異抄』の中に、

親鸞は弟子一人（いちにん）ももたずそ  
ろう、そのゆえは、わがはからいに  
ひとに念仏をもうさせそうらわばこそ、  
弟子にてもそうらわめ、ひとえに弥陀  
の御もよおしにあずかつて、念仏もう  
しそうろうひとを、わが弟子ともうす  
こと、きわめて荒涼のことなり

お念仏を喜び申している人は、親鸞が申  
さしめたのでなく、弥陀の御もよおしにあ  
ずかつて念仏申しているのであつて、わが  
弟子ではなく、如来の御弟子であり、とも  
に御同行御同朋あるといわれるのです。

またお手紙の中で

としごろ念仏して往生をねがうし  
しには もとあしかりしわがこころを  
も おもいかえして、ともの同朋にも  
ねんごろのこころの おわしましあわ  
ばこそ 世をいとうしるしにてもそ  
うらわめとこそ おぼえそうらえ よく  
よく御こころえそうろうべし

と諭され、往生を願うしるしには、もとの  
邪見な心を思い返して、ともの同朋に對し  
てねんごろの心が出て来るものであり、こ  
れが世をいとうしるしですよ、と懇切丁寧  
に述べておられます。このような御同行御  
同朋の精神が民衆の心を開き、やがて少  
づつ関東の地に念仏の僧伽（共同体）が形  
成されていくことになるのです。

信楽房（しんぎょうぼう）のこと

親鸞聖人のみ教えは、次第に関東一円に  
広まっていきました。お弟子も随分多くな  
っていききました。しかし中には聖人のおこ  
ころを理解できなくて、心得違いをする者  
もでてきました。常陸国新堤（にいづつみ）の  
信楽坊もその一人で、遂に聖人の門を離れ  
ることになりました。その時、お弟子の蓮  
位房（れんいぼう）と聖人とが交わした問答が、  
次のように伝わっています。

「信楽坊にお渡しになっていた本尊や  
聖教を取り返されては。」

「いやいやそんなことをしてはならぬ  
のじゃ。本尊、聖教を返還させるとい  
うことはすべきでない。念仏の法は、  
この親鸞が授けたものでなく、仏より  
たまわつたものである。親鸞には弟子  
一人もおらず、みな仏の弟子である。  
本尊や聖教は人びとを教化するために、  
仏のおぼしめしによつて私が仮に与え  
たものであつて、この親鸞のものでな  
い。従つて信楽坊が私にそむいたから  
といつて、それを

とり戻すべきで  
ない。もし仮に本  
尊、聖教を山野に  
捨てたとしても、  
その所の有情群  
類（生きとし生け  
るもの）がその聖  
教によつて救わ  
れることなる。」

（住職）



# 世話方集会が開かれました(3月20日)

在所の代表者(世話方)の皆さんに集まっていたいただき、昨年度の総括と今年度のかじ取りをしていただきました。

## 本山お差し向け布教にお参り下さい

- 6月14日(月)お逮夜(15日(火)お日中 西雲寺にて)
  - 6月16日(水) 安田町(未定文好氏宅)にて
  - 6月17日(木) 本堂町(八木健二宅)にて
- 布教使 姫路 八木浄顕師

## 来年の本山750回大遠忌に参拝しましょう

### 基本テーマ 私の「いのち」って何だろう?

(例) 仕事ののち、恋人いのち、健康いのち…

本当にそれで一生終わっていきける?この問いかけを、これから一緒に尋ねていきましょう。

### 団体参拝計画(平成23年・来年です)

(福井教区には5月21日が割り当てられました)

#### 西雲寺のバス運行予定

1台目: 1泊2日のゆったりプランです

20日(金)出発(観光研修)ホテル泊、

21日(土)御遠忌参拝(夕方着)

大型バス、費用3万円程

2台目: 土曜日の日帰りプランです

21日(土)早朝発(御遠忌参拝)夜着

大型バス、費用1万2千円程

3台目: 日曜日の日帰りプランです

22日(日)早朝発(御遠忌参拝)夜着

大型バス、費用1万2千円程

秋廻りの頃に募集を始めます。

どうぞふるってお申し込み下さい。



## 今年のさくら

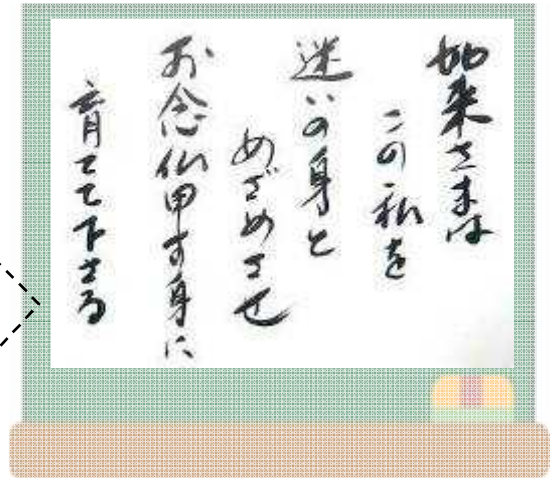


三味線グループ登場



殿下の子供達の雅楽演奏

### 山門掲示板



私たちは人生のなかにおいて、いろいろな出来事に出会い、よろこび悲しんできました。自分なりに幸せを求め、他人に負けたくない気持ちで、一生けんめい生きてきたのです。しかしこのまま人生を終えていくには、虚しさを感じます。それは人間は表面上は、幸せを求めて生きているように思えますが、心の底では誰でももつと深いものを求めているのです。本当の自分と出違い、自分の人生を尽したといえるようなものを求めているのです。如来のご本願は私のこころの深いところから、迷いと苦悩をかかえた自分自身にめざめ、お念仏申させていただく尊いいのちを生きてくれよと願われ、呼びかけているのです。

(住職)

### 先輩の感動をたずねて

毎日暮らしていると、「不幸」っていっぱいあるように思えます。健康や若さが崩れていたり、職やお金に困ったり、人に裏切られたり…つまりは思った通りにいかないってことでしょう。何とか脱出したいと思う時、さてどんな人に頼ります？

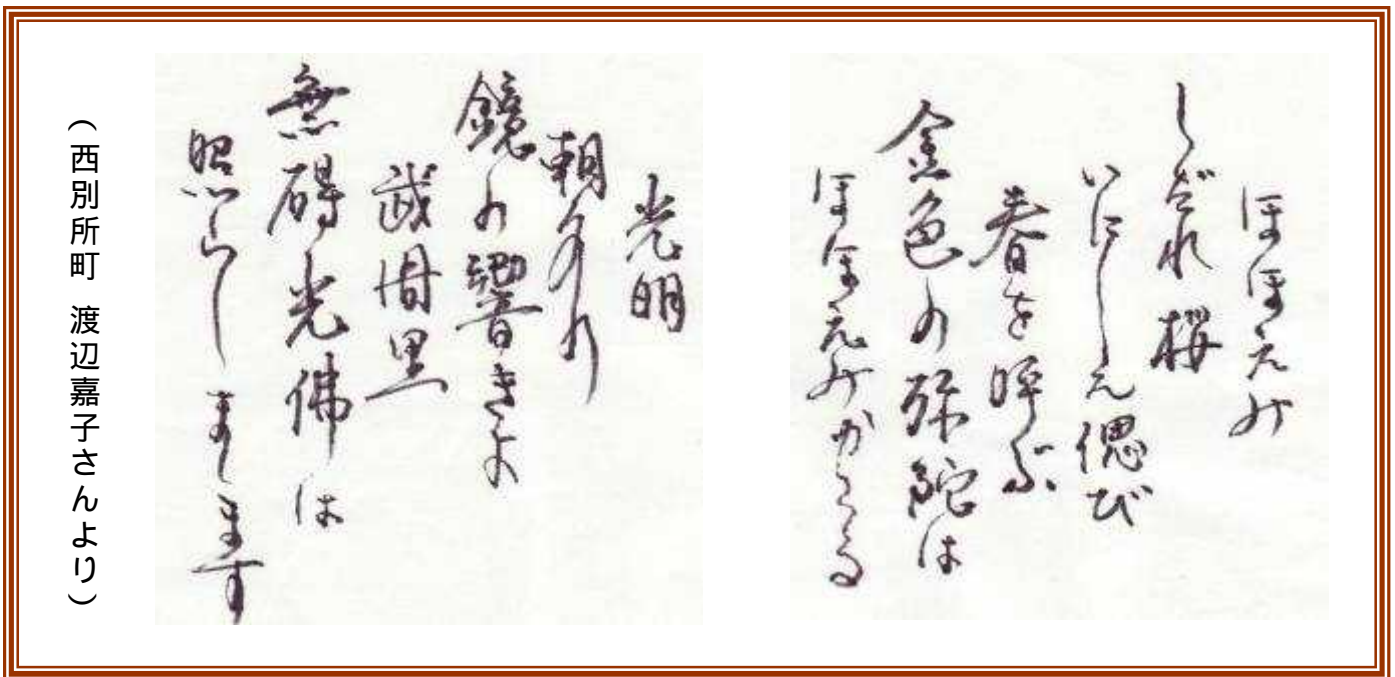
思い通りにする方法を知ってるよ〜という先輩  
心を整えて克服していくんだよ〜という先輩  
思い通りにならなくても幸せだよ〜という先輩  
僕は が大好き。思い通りに運ぶように頑張る！  
っていうのも、格好良かったりして…

親鸞聖人も20年間、比叡山で を真剣に追求されました。20年って長いですね〜。でも、 の幸せを体で表していた法然上人に出遇って、ひっくり返るような感動を味わったのだと思います。私の口から出る名号ひとつでさえ、先輩方（諸仏）の愛（本願）の呼び声だった…その名号こそ私の「いのち」だと、法然上人は全身で表していたのでしよう。

(編者)

ほんがんにみょうこうしよつじよつこう  
**本願名号正定業**  
親鸞作『正信念仏偈』より

読み方 本願の名号は正定の業なり  
本願 もと法蔵菩薩だった時の願  
い。仏の願い。  
名号 なむあみだぶつのこと。号は  
大きな声で呼ぶこと。  
正定 成仏が定まること、浄土往生  
業 思いと行い。過去からの蓄積。  
が定まること。



(西別所町 渡辺嘉子さんより)

## 図書紹介

『宙返りの練習』  
田口ランディ著

東本願寺出版部  
2009年  
税込1575円



田口ランディ氏は、1959年生まれの女性作家です。この本は、お寺とは無縁だった著者が、大谷派の新聞に連載したエッセイを集めたものです。死や宗教などに対して、生い立ちを交えつつ、飾らない感じで思いを巡らせています。目次を拾ってみますと、

ポチと呼ばれた人

悩ましき凡夫

あの世と浄土

お酒とパチンコ

罪と罰、あるいは許すということ

カミサマと阿弥陀様

『納棺夫日記』を読んで

救いようのないバカ：他

巻末には、三橋尚伸という女性僧侶との対談が載っています。「お坊さんが教えてくれない肝心なこと」という題も面白いです。その対談の中身にとっても共感！僕は、巻末対談を読むためにこの本を買ってしまいました。おすすめです。ぜひおススメ。紀伊国屋、勝木書店（カボス含む）には在庫がないようなので、県内の書店では取り寄せになると思われます。ネットではスイスイ買えますよ（編者）

## 発行

真宗仏光寺派 専念山 **西雲寺**  
住職 護城一寿  
筆頭総代 鈴木春夫  
編集責任者 護城一哉  
〒910-3523 福井市武周町5-2  
電話 0776-97-2138  
メール [kmgojo@mx3.fctv.ne.jp](mailto:kmgojo@mx3.fctv.ne.jp)  
ホームページ <http://arukou.net/>

## 次世代の方、分家された方に！

お手元に2部届いた時には、ぜひご活用下さい。

## みなさんの声 大募集！

原稿や作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。